

第2回 桜井市総合計画審議会 議事要旨

令和元年5月21日（火） 10時30分～

場所：西分庁舎 災害対策本部室

1. 開会

○事務局

- ・これより、第2回桜井市総合計画審議会を開催させていただく。なお、今回の会議から、5月15日に市議会の新しい議長、副議長に選任された藤井孝博様と大園光昭様にも参加していただく。

○伊藤会長

- ・前回に引き続き今回も総合計画に関わらせていただくこととなった。今回は会長という大役を授かった。皆様と一緒に計画づくりを進めていきたい。最近思っていることは、人生100年といわれているが、私ももう少しで70歳になる。桜井市に関わって久しいが、来る度に良い町だと感じている。子供から高齢者まで、安心して生活できるようになれば良いと思う。皆さんご存知かと思うが、2007年生まれの子どもが100歳まで生きる確率は50%を超えると言われている。仕事をリタイアしてから、幸せな高齢者生活を送ることができるまちづくりを考えていきたい。是非皆様の意見を賜りたい。

2. 総合計画（案）の諮問について

■市長から第6次桜井市総合計画の策定に関する諮問を受けた。

○市長

- ・今年は寒暖の差が激しい日が続いたが、5月も中頃になり、さわやかな新緑というよりも、初夏を思わせる汗をかく季節となってきた。本年は令和元年の記念すべき年である。本日第2回目となる、また新元号の令和となってから最初の総合計画審議会にお忙しい中、ご出席いただいたことに厚く御礼を申し上げる。ただいま、伊藤会長に対し第6次総合計画に対する諮問を行わせていただいた。よろしく願いしたい。
- ・第1回の審議会でも申し上げたが、第6次総合計画は、今後10年間のあるべき桜井市のまちづくりの指針となる、将来のあるべき都市像を描く重要な位置づけを持つ計画である。桜井市もなかなか厳しい状態が続いていたが、県や国の支援を得て、今までは計画の段階であったものが、いよいよ実現の段階に入ってきたという大事な時になっている。
- ・本日の審議会では、第5次総合計画の総括や、10年後の桜井市が目標とする人口フレームについて審議いただくこととなるが、これからの桜井市の土台となるきわめて重要なものと考えている。今回の審議会を経て、今後は基本計画や基本構

想といった総合計画の核心部分をご審議いただく。

- ・委員の皆様には、審議会で活発なご議論をいただくとともに、豊富な知見と桜井市への思いが詰まった素晴らしい答申になるものと期待している。これからの桜井市を決めるという思いを持っていただいて、よろしくお願ひしたい。

3. 案件

(1) 高校生まちづくり会議の結果について

■高校生まちづくり会議の結果について、事務局より説明を行った。意見の概要は以下のとおり。

○福本委員

- ・高校生の出席者の居住地は、桜井市内であるのか、それとも市外に居住しているのか。また、学生たちが日頃どのような活動をしているのか、どんなことに興味・関心を持っておられるのか、話の中でわかっていれば教えてほしい。

○事務局

- ・1点目について、はっきりと一人一人に確認したわけではないが、先生に聞くと、ほとんどが市外に住んでいる学生とのことで、事務局としても意外であった。2点目について、みなさん生徒会活動をされていて、桜井市の高校に通ってはいるが、このような会議に参加することで改めて桜井市について考えたり感じたりすることができるようになったと意見をいただいた。

○福本委員

- ・結果的に市外の学生だったということだったのか。市内の学生がいなかったというのは残念である。

○事務局

- ・結果的にそうだった。何人かは市内の学生もいたが、市外がほとんどだった。

○伊藤会長

- ・ご質問の意図もわかるが、外から見るとということによって、新しい見方が出てくるのではないかと。

○福本委員

- ・それぞれの学校から何名ずつ参加したのか。また、班分けはどのような形であったのか。

○事務局

- ・男女3名ずつで各学校に依頼していたが、当日欠席された方がいらっしやったので最終的に16名となった。各学校からの参加者をシャッフルした形で班分けを行った。

○山本委員

- ・ファシリテーターの方が中に入っらっしやったと思うが、参加された方の感想があれば教えてほしい。

○パシフィックコンサルタンツ

- ・高校生まちづくり会議は高校生のみなさんに自主的に考えていただくということで、資料の説明と会議の運営はこちらで行ったが、ワークショップ自身は基本的に学生さんが主体的に考え、とりまとめるという形で行った。学生さんには事前に宿題ということで6つの柱について考えてきていただいた。
- ・ワークショップを実施している中では、今まで知らなかった桜井市について学ぶことができたという話を聞いている。桜井市にはいろいろな魅力があり、そうめんや木材といった産業や子育て支援を頑張っているという感想が意見として出てきた。しかし、安全安心については、近年災害が多く起き、そういったことを考える機会が多かったということで、3班とも同じように安全安心なまちということをキーワードとして出してきたという状況である。高校への通学路の中でも安全ではない場所もあると感じていることから、安全安心なまちがキーワードとなったという意見もあった。

○福本委員

- ・1班の「2 産業」の中で、個人経営の商店が商売しやすいまちづくりとあるが、桜井市は個人経営が非常に難しいということを知り合いが言っていた。桜井市で店を出すと地元の人がなかなか来てくれない状況があると言っていた。学生がどういう視点で考えているのか教えてほしい。

○事務局

- ・あくまで推測ではあるが、3高校とも桜井駅南側の商店街を通過して通学しているので、寂れた商店街を何とか活性化したいという思いで書いていただいたのではと感じている。商店街の活性化については第5次総合計画同様、第6次総合計画においても大きな課題であるため取り組みが必要であると感じている。駅周辺のまちづくりということでは、近年、地元の方を中心としてまちづくり会社を作って、空き店舗を活用して喫茶店やレストラン等を展開している。それに対して、行政も協力して空き店舗を中心に創業支援を行うことも考えている。
- ・市長へのワークショップ結果の報告の場において話を聞いたが、参加した高校生たちはこういう機会を得るということで、かなり勉強をしてくれていた。桜井市の強み、弱みも十分に理解してくれた上でこの会議に入ってくれた。市外の学生が多いので通学路にシャッター街があり、寂れていると感じたのだと思う。高校生に将来、桜井市で働く気持ちはあるか、市役所で働く気持ちはあるかと直接質問したが、やはり公務員の志望は少ない。今の世相を反映しているのかなと。民間が好調であるので、公務員は民間と比べて給与面も待遇もよくないし、末端の苦情処理も多い。個人的な感想ではあるがそのように感じた。

(2) 第5次桜井市総合計画の総括について

■第5次桜井市総合計画の総括について事務局より説明を行った。意見の概要は以下のとおり。

○和田委員

- ・産業分野の観光振興の問題について、近年、近隣市町村との連携によって観光資源を活用し、多様なテーマでツアーパックを組んでいくという方向に動いている。桜井の観光振興について、桜井だけで考えるのではなく、明日香や天理、田原本といった近隣の市町村と連携していくことも可能であるし、今後さらなる連携が必要であると考えている。例えば、記紀万葉ツアー、聖徳太子のゆかりの地のツアーなどいろいろあると思う。
- ・それから、環境分野については取り組みが遅れているということであるが、例えば市庁舎の建て替えの際に太陽光発電を使えないのか。あるいは、桜井市は木材の町であるので木材振興という意味で、薪ストーブを使ったエネルギー対策ができないか。こういったことを考えながら、経済効果も合わせて検討することをお願いしたい。

○林委員

- ・6 ページの中頃に「観光施設間の移動手段」「観光情報の発信」について、満足度が低いという決裁をいただいているが、観光協会としては決して低いということはないと思う。観光協会では、JR 東海、JR 九州、JR 西日本に要請をして、駅から観タクンという取り組みをすでに進めており、実績も上がっている。長谷寺コース、大神神社コース、談山神社コース、広域観光として土舞台、県立万葉文化館の4コースを2時間で走るコースを展開している。もう一つは、今盛んに宣伝されているが奈良四寺巡礼として、安倍文殊院と長谷寺、岡寺、室生寺ということで計画している。これはものすごく人気があり、特に関東の方に人気がある。
- ・また、観光情報の発信について、桜井市の観光まちづくり課でもホームページをあげていただいているが、観光協会でも独自にホームページを立ちあげて、都度更新している。アクセス数はずっと延びている状況である。

○事務局

- ・観光に関する指摘と環境に関する指摘をいただいた。
- ・観光について、満足度が低いということについては、観光協会には取り組みを進めていただいていると思うので、「さらなる」ということで進めていただければと思う。広域観光の方では桜井市でも取り組みを強化しており、近隣の磯城郡、宇陀市、明日香村など、広域で一つの地域ということで売り出すことも考えている。これについても10年間でさらなる強化を図るということで考えている。
- ・環境分野について、ゴミ処理についてはしっかり対応しているが、社会潮流にも書いているような気候変動対策や循環型社会の実現についてはまだ推進の余地があると思う。その中で薪ストーブ、庁舎の省エネルギーについて提案いただいたが、

特に薪ストーブについては森林環境税を活用した取り組みも必要と考えている。課題として検討材料にさせていただく。

○菅原委員

- ・7ページの子育て支援について、朝倉台の畿央幼稚園が撤退すると聞いているが、ニーズがあるのに撤退するというのはこの10年間の取り組みと逆行していると思うがどのように考えているのか。

○事務局

- ・少子高齢化ということで子供がどんどん減っている。今後どのように施設の維持も含めて運営を行っていくか、去年一年間かけて学識も含めて検討を進めてきた。公立の幼稚園は1クラス10人という状況が続いている。40年くらい先に子どもの数がどのようになるかシミュレーションできれば、施設の数が決められる。公立が民間を圧迫できないので、そういう意味で私立の幼稚園の方でやらしてもらおうという方針を出している。実際、子どもの数が減ってきている。元々は朝倉台に住んでいるお子さんを対象にということで幼稚園が整備されたが、ご多分に漏れず住民の高齢化が進んでいる。その中で民間の畿央大学でもこの先の経営も考えられたようである。市としても、民間の方に子どもを任せていこうという方針を持っているので畿央大学と調整を進めている。少子化の中で、子育て支援は重要な施策であるにとらえており、子どもの教育の在り方、私学との共存のあり方について検討している。

○杉本委員

- ・農業委員会では、いろいろな取り組みを行っている。山の辺の道等においては展望が非常に重要であるが、最近竹藪から雑木が生い茂っている。天理から山の辺の道に入って桜井市で一番展望が良い、写真にも常時載せているような場所に笹が覆い被さって何も見えない状況になっていた。そのため農業委員会では5年ほどかけて雑木等を取り除いた。観光協会でも檜原神社の提灯行列で二上山を見る取り組みをされているが、檜原神社の一角からやっと二上山が見えるような状況である。このような取り組みは、みんなボランティアでやっている。最近、薪ストーブを設置している家を取りに来てくれるようになったのでマシになってきた。それを継続して取り組むための費用を支援するような桜井市の観光に特化した対策をやってほしい。
- ・昨年、箸中古墳の大池の周りを歩く企画を行った。1月26日にポスターを貼ってホームページで広報をしたら、2月1日だけの受付で全国から699人集まった。箸中というネームバリューだけで1,000人を超える人が集まった。
- ・もっと桜井市のみなさんが資源をどう生かすのか個々に考えないといけない。一つ一つの資源を行政や地域の方が大事にするべきである。
- ・観光イベントで一番苦労したのはトイレである。巻向駅から先の散策路上にトイレがないため、駅で降りた方に対して配慮しないといけない。天理からNAFICまでは観光道路になっていて、いろいろなことをされている。田原本の唐古遺跡の施設で

は、発掘を体感できるということをやっている。桜井も特徴のあることを具体的に一つ一つ企画してもらう方が良いのではないかと。

○和田委員

- ・これから社会は人口減少、少子高齢化になっていく。そういったときにインフラも含めて、これをどう整理していくのかということが大変重要になってくる。高齢化であれば福祉をどうするのか、そういう意味で人口減少の問題、人口ビジョンというものを総合計画に反映できるように、課題を示していただきたい。そして私たちの考える材料にしていきたい。検討をお願いしたい。

(3) 令和12年(2030年)の人口フレームについて

■令和12年(2030年)の人口フレームについて事務局より説明を行った。意見の概要は以下のとおり。

○伊藤会長

- ・総合戦略の時点から現状を踏まえて下方修正されたということであるが、いかがか。

○大園委員

- ・人口推計の考えの中で、各種施策の展開で出生率 2.07 とあるが、実現するための方策があるのか。

○事務局

- ・今やっている子育て支援を充実させるということが一つ、そしてこれから検討する第6次総合計画の中で、人口を維持するための施策をいかに検討するかであると考えている。この人口目標に近づくために皆様方に検討をお願いしたいということが今の時点での回答となる。

○藤井委員

- ・今まで総合計画で設定された目標人口の数値を超えたことはあるのか。

○事務局

- ・第3次、第4次、第5次くらいまでは人口が増えるという予測をしていた。そのころは出生率も2ないし3など高い状況で高度成長を続けていたが、平成に至ってバブルがはじけて、高度成長から安定成長になり、逆に人口が減ってきた。人口問題研究所が出した限界集落ができるというレポートでみんな問題に気づいた状況である。桜井市も、この10年の間に6万4千人から人口が1割減った。このままいくと一番下の数値になってしまう。施策を打って何とか歯止めをかけようということ考えている。

○藤井委員

- ・目標の人口設定をする時に、これからの事業計画に対して総人口が予算にも関連してくる。人口が計画に足りないということは予算が足りないということである。人口の設定はもっと真剣に考えていかないと赤字を作る要因になる。

○伊藤会長

- ・本格的に議論する際に、もっと情報を提供していただくようお願いしたい。いかに減少を抑制するか、出生率だけではなく、流出を減らす、あるいは出て行った方が戻ってくる、そういったことを総合的に考えていくことが重要である。本格的な議論は先に送りたいと思う。

(4) 第6次桜井市総合計画の考え方と構成について

■第6次桜井市総合計画の考え方と構成について事務局より説明を行った。意見の概要は以下のとおり。

○伊藤会長

- ・ポイントは従来の総合計画に総合戦略を一体化して進めていくという考え方であるが、いかがか。

○大園委員

- ・総合戦略を統一化していくという話はどうか。

○事務局

- ・おっしゃっていただいたように、市が行う施策の中でリンクさせるために総合計画の中に取り組むこととしている。

○伊藤会長

- ・総合計画は策定義務がなくなったので、自治体が主体的にやるものとなっている。総合戦略もそういったものである。そういった中で、20年先を考える中で、10年取り組むことを総合計画に位置づけていく。さらに、総合戦略は今後10年間の中で重点的に取り組むことをどう位置づけるのかという考え方である。

○三井田委員

- ・総合計画の具体的な話には踏み込めないところがあるが、桜井の問題点として空き家の増加があって、なかなか利活用が進まない。桜井市は、実は調整区域内の開発の条件を緩くして家が建つようにしている。一方では市街地を小さくして空き家、空き店舗を活用しようと言いながら、一方では開発条件を緩めて農地の利活用を進めようとしている。そういった矛盾したことをたくさんやっている。
- ・1目標に対して1政策があるような書き方になっているが、実は一つの政策はいくつかの目標を持っている。そういったマトリックスで整理すべきである。いいことをやろうが実を結んでこない。たとえば景観ガイドラインを作っているが、美しい町並みにならない。そういったことがあるので、具体的な話が思い浮かぶような計画にしてほしい。

4. その他

○事務局

- ・次回の審議会の予定であるが 8 月の中旬から下旬を予定しているので、ご出席をお願いしたい。

以上